

「大阪市社会福祉研究」 同心会努力賞受賞に寄せて

石村 陽一◎第二大正園

ちょうど昨年の夏ぐらいに、大正東地域在宅サービスステーション・いずみの家の坂東弥生さんから「いっしょに共同研究して、『大阪市社会福祉研究』の第30号に論文発表しませんか」と声をかけていただきました。

当時、日々現場の業務に追われていた私は、「そんな時間はとてもない」「学生から何年も経っており、論文なんて自信がない」と何度もお断りしたのを思い出します。

しかし、彼女の粘り強い説得に「やってみよう!」と研究論文を共同で投稿することになりました。参加することに意義があると、子どものころにびっくり日本新記録にでていた、轟二郎さんがおっしゃっていたのを思い出して挑戦してみたのです。(若い人にはわかりにくいですね)まずは、何をテーマにするかで2カ月ほどかかりました。ようやく決まったテーマは「介護保険の要支援者に対する『介護予防』サービスのアプローチ法についての考察」でした。平成18年度に介護保険制度の大きな改正があり、介護に予防という概念が盛り込まれました。しかし、実践活動している中で、この「介護予防」には普段からいろいろな疑問があり、このテーマに取り組むことにしました。そして、論文の中では国と現場における「介護予防」という概念の差について触れ、サービス事業所の立場から円滑に説明・同意が得られる方法を検討し提言しながら、これからの課題について考えてみました。

いずみの家の坂東さんとは、介護支援専門員協会大正区支部でいっしょに活動しているのですが、職場が違うため、なかなか話し合う時間が取れないなど多くの困難はありましたが、なんとか締め切りに間に合わせる事ができました。

私の中で、今回このような研究発表をさせていただいたことは、普段の仕事を振り返ることができ、自己点検するいい機会になりました。また、社会福祉従事者として



多くの学びもありました。それだけでも、とても満足していたのですが、5月21日に開催された選考委員会で「同心会社会福祉研究努力賞」という大変名誉な賞をいただくことができ、とても感激しております。

6月16日の授賞式では、大阪市社会福祉研修・情報センター所長の右田紀久恵先生、大阪市立大学大学院教授の白澤政和先生、大阪市健康福祉局の山田生活福祉部長、社会福祉研修・情報センターの村江副所長に講評をいただき、あらためてこの研究論文の良かったところ、これからの取り組みについての課題を指摘していただきとても参考になりました。

これからも、自分の仕事を客観的に振り返り、自分自身を見つめなおすことでスキルを高め、利用者の皆様方に還元できると信じ、挑戦していきたいと思えます。

「大阪市社会福祉研究」第30号掲載の「介護保険の要支援者に対する『介護予防』サービスのアプローチ法についての考察」で同心会社会福祉研究努力賞を受賞されたお二人を代表して石村陽一さんにご執筆いただきました。